校友時報

卒業特別號

第54号
発行所
秋田縣立横手高等學校新聞部
電話254番
編集人 佐藤 嘉一
印刷所 大藤堂印刷所

祝御卒業

今マ巣立つ松陵健兒に贈る

本日第七回卒業式擧行

螢雪の功成し二二七名

◇…昭和二十九年度第七期卒業式は本日八日午前十一時より…◇
◇…多数の来賓、父兄及び在校生の臨席のもとに挙行される。…◇
◇…卒業生は二七名、内女子卒業生は二四名だが本年は二名…◇
◇…である。又定時制五七名も全校一堂に会して同時に行う…◇

校長メッセージ

知情意の偏らぬ人間に

学校長　加藤正一

今年の旧代の成人式に秋木中島先生のお話を拝聴した。先生は心理学知力共に成らんとして未だ成らざる時代と言える。最後は成人の時代、一人前の大人の時代であってここに始めて法律は一個の人間として扱うのだ。抑々人間（にんげん）の本義は「じんかん」であって、人と人との関係、人間の心理の変化を分けて大体三天別する。

人と人との繋がりに依って成立している世の中、社会ということである。幾多の欠陥あり、居に満ちた生き人間の作り成す世の中では自我だけが自主独往に馳り過ることはゆるされない、お互の話合いに依る調和（妥協、折衷とも）にいし、まして初心なる若き微し得ない意気地なしでは所詮話にならない。要は知情意の偏らない人間に自らを仕立てる努力が必要であると思う。これは我々凡人にとって容易なことではない。容易でないが幾多の先人がよき努力の跡を示して呉れている以上不可能とは

ことの喜びにひたり、他人からは愛され所謂社会有用の材となる為には知識ばかり先走りする弾でつかちでもいけないし、人情ヒューマニズム過かな感情実践も足りない。

諸君も幾多の先輩が偉大なる人間として身の為に役立つとは

諸君の大多数は早晩二、三年後にこの成人の日を迎えるであろう。法は約束事だから物に依っては満二十と此場合も多少異るが、何れにしても諸君は現在この場目の近くに来ているのだ。

調つて我々が学問するのも技術を磨くのも唯それ丈では意味が極めて薄いので、何れは一個の社会人として身の為に役立てるという大眼目を忘れてはならない。論語という書は我々が世に立つ実践面でこの種々の心得を実に智慧深く多角的に教えて居るいい本だと私は思っている。唯諸君の読み方が浮ついたり、ただ読む人はないであろう。本そのものを封建的な思想が基底になってこの頃は修正を要するものも無い訳ではないし又、命令もあり、中学卒業当時とは異り兎に角に人間としての自覚が問われる。今や諸君はその判断能力を体得して後ちどう考えるのである。

人間として誤り無き途を辿る様学ぶべき人の撰択に誤りなきことを祈って止まない。

諸兄姉を送るに際して

委員長　奈良久孝

東北の春はいまだ遅く朝夕の風はなお冬の名残りを留めています。新しい覚悟をもって踏み出した高校生としてのコースも、早春の訪れと共によやく終りに近ずき諸兄姉は雪の功空しからず、プラタナスの芽木の校門、この松陵を見立つことなり無量の感慨を抱いて居ることと存じます。

思えばこの三年間、学業にスポーツに洗練し、風雪に鍛え、青春の一時を此の学舎でお過しになり、今お立ちになられるのです。私達も又これからの一年間を今の果てしないリレーの上に諸兄姉からバトンを受け継ぐと思えば、是迄何一つ出来ずひたすらに諸兄姉へ甘えていた私達として今お別れするに辛い、ひとしを惜別の情を感じ、先ずの不安におそわれます。とりわけ本年は本校創立三十周年に当り、人間三十になれば云々の如く私達も古い殻からの脱皮の時なのです。今までの私達の活動には少なからず山あり谷ありで、その谷を乗り越えてこそ発展があるのであり、私達は今年こそその谷を乗り越えるべき転換期なのです。この大切な時期に於てよきリーダーである諸兄の御指導を仰ぐことの出来ないのは誠に残念であり、且つその責任の大なるを痛感するのであります。更に我々在校生として尊い御祈念するのは諸兄姉の前途御多幸ならんことであります。

最後に私達は諸兄姉の御卒業を心から祝福するとともに諸兄姉の意思をつぐ本校発展のため努力する事を誓い、これまでの御親切な御指導に対しまして満腔の謝意を表してお別れの言葉と致します。

正しい自己判断を

三年部　部長　相澤宇内

諸君も幾ばくも無くして社会人となられる。今や諸君は成人として高く評価されるのである。

実際に成くものも大学に進む者も直ちに社会人の仲間入りをする。

諸君は自分一人位の力は知れればならぬ。自覚せねばならぬ。

諸君の今日の心境こそ二度と訪れないということを深く心に刻んで残き度い。何故なれば、中学卒業当時とは異り兎に角に人間としての自覚が問われる。今や諸君はその判断能力を体得して後ちどう考えるのである。

人間として誤り無き途を辿る様学ぶべき人の撰択に誤りなきことを祈って止まない。

論壇

波紋

佐藤公厚

諸君！諸君は本校の校則の一つとして男子のスゲンバー、女子のトッパー着用禁止の一項目を知って居ることと思います。

私はこのことに対して女生徒側がトッパー着用禁止の案をくつがえしたことについてあえて我々男生徒といわずとの事実より学び取るべき何物があっかんだことと思っています。私の云う何物かとは「自分を主張する勇気」というものの尊さを切実に感じさせられたことにほかなりません。

女生徒が自らの立場をよく批判し又認識することによって積極的に自分を主張した事は我が校に女子入学以来、女がひっこみ思案であり、更に「井戸の中の蛙が多い」という定評をくつがえると共に女生徒側が自ら主張したことによって大きな勝利を獲得したというのです。しかし私は「自分を主張する」というこの校内の事柄から今日の日本を悲劇のどん底に導き日本国民の前途を暗黒に陥らしめたかの太平洋戦争、第二次世界大戦を省みずにはいられないのです。終戦当時の雑誌、いや現在の雑誌において「あの戦争は到底見込みのない完全なる敗戦であった」というような一説を目にします。これは現在当の見識をもつ地位にある人が云っているのですが、私はこに何故との根本考えをもっていながら、それを主張しなかったかが不思議でならないのです。

「長い物には巻かれろ」の軍国主義時代であったことは解りますが自分の信念としたがって生命を投げ打ち祖国の為に戦争に出来る勇気を持ってはっきり主張出来なかったのでしょうか、もし主張できたとしたらあの惨な悲劇の戦争はおこらなかったろうことは誰しも否定し得ぬ事と思います。

私はその時代を経なった大人の人々、又、現在国家の有用な方面をつかさどる大小の人々の今後の日本の発展と向上に対して反省を促したいのであります。日本人には過去も、又現在も人の前で自分を主張しないことによって自分の責任をのがれようとするひきょうな態度が多く見受けられます。たとえば現代流んに行われて居る世論調査ということにおいて「わからない」と云う解答がいまだお相当に多い事は「体何を物語っておりましょう。「もしこんなこと言云ったら他人の目をひきあれこれ云われぬか」と責任をのがれようとする心理が根強くひそんで居る事を見のがしえない事実であります。これこそ何時になっても変らぬ「さわらぬ神にたたりなし」の精神が今もなお我々の生活を支配している現実のあらわれではないでしょうか、私は毎日東能代駅から汽車通学をして居て強く感じていることは「座席をゆずる」とか「もっと中につめてもらいたい」という言葉であります。「座席をゆずる」ということに対して、それは「親に良いことだ」「ぜひそうしたい」と思って居てもなかなか出来ない」ということなのです。

これが私のモットーである。

本校進學希望者

二七三名

去る二月二十三、四日、金澤一高に高校進学試験を受けたが、それに先だって本校に入学希望している者の調書は下五日締切られたが、その結出の各校別希望数は次の通り。（カッコ内は男子、上は女子）

能代第一中学校	五二名
能代第二中学校	七四名（四名）
東能代中学校	一七名（一名）
岩館中学校	一四名
二ツ井中学校	十名（一名）
八森中学校	十名（二名）
常盤中学校	七名
鷹巣中学校	六名
沢目中学校	六名
鶴川中学校	六名
富根中学校	五名
荷上場中学校	五名
畚岳中学校	四名
琴丘中学校	三名（一名）
藤琴中学校	三名
船越中学校	二名
鳥川中学校	一名
浅内中学校	一名（一名）
深浦中学校	一名
上小阿仁中学校	一名
東雲中学校	一〇名（一名）
合計	男子　二六二名 女子　十二名

本年度の入学定員は二五〇名であるので、僅かに二三名の超過としかならない。

祝御卒業

各種事務用品
学生の店
畠町　キムラヤ

萬年筆
メガネ
名入れサービス
卒業記念贈答に…
畠町　カモヤ
TEL 464

聞け!!
…永遠の名曲を…
寫真と楽器
アサヒ樂器店
TEL 640

カバンはカバン屋で
学生カバン　ボストンバック
ランドセル　肩掛鞄　幼稚園カバン
学生帽（高校 中学 小学 幼稚園）
スポーツ服装
畠町　大黒屋へ